

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4790300018 | | |
| 法人名 | 有限会社 介護サービスセンター前原 | | |
| 事業所名 | グループホーム喜楽 | | |
| 所在地 | うるま市安慶名362番地11 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年12月3日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年2月24日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790300018-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 沖縄タイム・エージェント | | |
| 所在地 | 沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F | | |
| 訪問調査日 | 平成26年1月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は、パーソンセンタードケアを基本に、認知症ケアを提供しています。
 ・職員の質を高めるため、社外研修に参加しやすい体制である。
 ・認知症介護実践者研修修了者も、4名おり認知症の方が安心して暮らせる環境である。
 ・当事業者は、地域との交流も積極的に行っている、また、近隣の高校生がレクレーションボランティアで来所することもある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念は解りやすい言葉で解説し、職員も理解して日々のケアに活かしている。入居者が外出して活動できる範囲が限られた状況から、事業所は地域との交流関係の構築を目指し、近隣高校生との定期的な交流に繋げている。また、認知症サポーター養成や、高校生が企画した公民館でのミニディにも参加している。入居者の誕生日の月に自由な一日を設定し、入居者の希望を聞いて可能な限り叶えられるよう支援している。職員に対しては、研修や月1回の会議、個人面談を年2回実施し、ケアの質の向上や職員の声を聞く機会としている。パーソンセンタードケアを基本に食事、排泄、入浴等個別ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年 2月 13日

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念を玄関先、事務所内に掲示し周知を図っている。 ・職員会議・ケース会議等で事例を通して、再度理念を考え、共有し、統一したケアを行っている。 | <p>理念は項目毎にキーワードを設定し、職員が取り組みやすいよう説明も加えている。職員は理念に沿ったケアが入居者に対して実践できているか、申送りや職員会議等で確認している。また、新規入居者の場合は理念の一つ「馴染みの関係作り」の為、職員間で関わりの機会を増やして信頼が得られるよう努めている。</p> | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治会と連携が取れており、「地域敬老会・夏祭り」等に参加している。 ・近隣学校(小中高・支援学校)の職場体験の受け入れを積極的に行っている。 | <p>地域行事の情報を基に、地域のミニデイや敬老会に入居者数名が参加し、職員は行事の準備等で協力している。近隣の保育園や学校から訪問があり、外出が厳しい入居者との交流の機会となっている。職員は地域住民へ「認知症について」啓蒙活動に取り組んでいる。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <ul style="list-style-type: none"> ・地域へ認知症の理解を広めるよう、サポーター養成講座を開催している。 ・今年度も、キャラバンメイト養成講座へ職員1名を派遣。また、若年性認知症家族会との啓蒙活動を行っている。 ・中農福祉科へ出前講座を開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議では、日々の活動の報告。 ・地域行事への参加及び調整。 ・地域のインフォーマル資源の情報収集。 ・事故報告書、ひやりハットの改善報告等 | <p>会議は定期に開催し、入居者の参加にも取り組んでいる。事業所の運営や活動報告、ヒヤリハットや防災訓練、外部評価等について報告している。会議の議事録は委員別の意見のみで、議題に沿った委員間の意見交換等会議の進行状況等が確認できない。</p> | <p>運営推進会議を議題に沿って進行していることや委員間の意見等が今後活用できるように、議事録の整備が望まれる。</p> |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | <ul style="list-style-type: none"> ・うるま市役所介護長寿課へ、グループホームたよりを定期的を送付している。また、認知症等の研修があれば案内し、協力関係を築いている。 | <p>行政担当者から運営推進会議において介護計画策定について情報を得ている。地域密着型サービス事業所に期待される「看取り等」については、訪問診療等医療機関との協力関係の構築や、介護現場の集団指導等の実施を行政に要請している。</p> | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束防止マニュアルがあり、職員が拘束について理解できている。 ・職員会議で、ヒヤリハット・事故報告書等を定期的に検証する際、「身体拘束」とは…全職員が再度、考え拘束をしないケアを実践している。 | <p>身体拘束についてマニュアルを整備し、利用契約時に説明している。家族等から拘束を求める声に対し、事業所方針やリスクについて説明した上、行政窓口にも相談し対応(センサー取付け等)を検討している。職員は身体拘束マニュアル等で理解に努めている。</p> | |

沖縄県(グループホーム喜楽)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | ・高齢者虐待防止マニュアルがあり、職員は、虐待について理解できている。 ・新人職員研修の際、高齢者の虐待等について話している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・管理者は、権利擁護推進員研修を受講済みであるが現在権利擁護を活用するケースは、ない。 ・権利擁護が必要と考えられる入居者様には、契約時、説明を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約の締結・解約・改訂等があった際は、前もって書面で報告し、個別で説明を行い十分な話し合いを行い、書面で同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・玄関先に苦情受付箱を設置している、また、苦情が記入しやすいよう入居者個々の部屋に記入用紙も準備している。 ・運営会議に、家族代表も参加されており、外部者へ話せる機会がある。 ・ご家族が苦情をを言いやすいよう、年1回、無記名記入方式で、アンケート調査を行っている。 | 入居者の多くは直に職員に意見や要望を伝え、発語や表情、動作で把握に繋げる入居者もいる。家族の意見等を聞く機会として行事等を設定するが、中々表出がなく、アンケートの実施に取り組んでいる。家族から「職員の名前が解らない」の意見で名札着用をはじめている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・管理者は、職員の意見や改善事項等の要望が汲み取れるよう日々心がけている、改善事項等があれば、代表者と情報交換し即、対応できる体制である。 ・また、年に1回、介護職と個別面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。 | 職員の意見を管理者は毎月の職員会議や年1回の面談で把握している。職員間の意見で、入居者の起床時間が7:00から7:30頃に代わり、職員の出勤時間を変更した結果、朝の清掃に影響を及ぼした為、清掃時間を午後に変更している。新任職員の夜勤勤務には、約2か月間の現場経験後に組入る等で配慮している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・管理者は、毎年「OJT」を行い、職員の質の向上を図っている。代表者は、OJTを基に職員の個々の意欲や、能力を見極め処遇の改善等を行い、働きやすい職場環境の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・代表者は、職員の個々の能力を把握しており、管理者と情報の共有ができていて、個々の能力に合わせた、社内外研修へ積極的に参加できるような環境である。 | | |

沖縄県(グループホーム喜楽)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県グループホーム連絡会へ加入済み ・うるま市内グループホームとの連携が図れており情報の共有もできている。 ・介護職は外部研修等を通して、他ホームとの交流が図れている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | <ul style="list-style-type: none"> ・入居者本人の希望を傾聴し、コミュニケーションを図り、入居者と共に活動等を行うことで、信頼関係を築き接するよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | <ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、ご家族との話し合いを行い、ご家族様の要望・希望・不安等を把握することに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの生活歴、生活環境全般を把握し、先入観を持たず視野を広く持ち必要とされている支援、課題を見極められるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模を活かし、家族と一緒にような生活を送ることで、入居者、職員共に支え合うことができる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | <ul style="list-style-type: none"> ・職員は、入居者の情報を共有し連携を図ることで、家族と共に入居者を支えていくことができる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | <ul style="list-style-type: none"> ・入所後も馴染みの関係が途切れないよう、家族・地域・サークル等と連携をとり支援している。(大正琴サークル・お盆・正月時の一時帰宅)支援を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 入居者の生活拠点だった場所にドライブで出かけ、集落内を車いすで散策し、時には地域住民と言葉を交わす等の支援をしている。入居者が活動しているサークルへ毎週送迎し、サークル仲間との関係性継続に繋げている。また、家族等と行きつけの美容室利用等外出も支援している。 | |

沖縄県(グループホーム喜楽)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・共同生活の中で、入居者個々が孤立しないよう声かけ等の支援をおこなっている。 ・気の合う仲間との交流等、必要に応じて個別の対応を行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・契約が終了しても、何かあれば、相談に来ていただけるよ、説明している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・本人、家族、関係者から聞き取りを行い希望や意向をの把握に努めている。 ・今までの生活歴を踏まえ、本人の希望や意向の把握に努めている。 | 入居者の思いや意向は、直に伝える2人以外は家族から情報を得ている。事業所では誕生日に「本人の自由な一日」を設け、入居者の声を反映し支援に繋げている。例えば、「友人と一緒に昼食をしたい」との要望には、居室担当職員が意向を確認し「行きつけの喫茶店」で友人と待合せて昼食を設定し実現している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・本人や家族、また、関わりのある事業所からの情報を基に、これまでの経過等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・入居者個々の観察、職員間での日々の情報交換を行うことで、嗜好・できること・できないことを把握し、自立支援に向けて取り組んでいる。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・ケアプランが計画通りに実行されているかどうか、あるいは、新たなニーズがないか、職員間で常に情報交換を行うことで現状に即したケアプランを作成している。 | 入居者の介護計画は、毎月個別のケアチェック表を介護職と確認して状態を把握し、また、月1回の職員会議の意見も集約して計画の変更や継続に繋げている。担当者会議には入居者や家族が参加して意向や要望を伝えている。居室担当職員を配置し、入居者の生活環境面の充実も図っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・日々の記録の中で、問題点及び改善点等が上がった場合は、全体ミーティング等で議題に揚げ職員全員で改善にむけ取り組んでいる。 | | |

沖縄県(グループホーム喜楽)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・入居者及び家族の個々のニーズに対して、できるだけ、対応できるよう取り組んでいる(お盆・正月)等の送迎支援など。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・入居者様の、出身地で毎週行われている、大正琴サークル・カラオケサークル等への参加を支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・かかりつけ医は、ご家族様と本人が決めている。 ・ご家族の希望があれば訪問診療を使うことも可能である。 ・適切な医療を受けられるよう、ご家族様が対応できない場合は(車椅子の方)等は、ホーム職員にて送迎支援を行っている。 | 入居者、家族の希望するかかりつけ医を家族対応で受診している。生保の入居者が訪問診療から通院に変更となり、定期受診時は介護タクシーに通院先への情報提供書の手交を依頼している。薬の変更や状態変化時には職員も同行して情報を共有する他、電話でも確認する等医療機関とは連携している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・当事業所は、看護師を専従で採用しているので、介護職との情報の共有もできている。 なにか、あればオンコールで、看護師が対応してくれる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ・入退院又は、入退去前後は、ご家族、医療相談員との情報交換を行っている。 ・協力医療機関との連携もスムーズに行えている。 ・入院時も、面会に行き状態確認を行っている。 ・ご家族が受診対応できない場合は、職員にて対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・契約時に重度化や終末期の説明を行い書面にて同意を得ている、終末期等の場合、主治医又は、関係機関との連携が図れており、必要に応じてご家族、Dr、本人等でカンファレンスを開催し、ケアする体制である。 | 「重度化や看取りの指針」を作成し、入居者や家族に契約時に説明している。看取りを行う方針とし、職員研修も実施して不安等の軽減に努めているが、管理者は医療関係者(訪問診療)との連携が課題ともしている。家族とは、重度化した場合の救急搬送の医療機関を確認している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・緊急時マニュアル、事故発生マニュアル等があり、個々の状態に合わせ、的確な対応ができるよう、職員会議等で、情報を共有している。 | | |

沖縄県(グループホーム喜楽)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回は、避難訓練を開催している。 ・またうるま市前地域で行われる、地震・津波等の総合訓練に参加している。 ・火災・津波・地震等個別で、マニュアルを作成している。 | 夜間想定と市総合防災訓練に合わせて年2回自主訓練は実施しているが、地域の協力はなく事業所関係者のみとなっている。避難訓練では入居者をシーツ等で運び出す訓練が行われている。非常口はウッドデッキ、スロープで工夫されているが、調査日には木材製品等で車イスが通れない状況となっている。 | 災害時に入居者、職員が安全に避難できるよう、通路である非常口は常に使用できる環境整備と、自主訓練時にも地域に声かけて協力体制が図れるような取組みが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念を基に、全職員がパーソンドセンタードケアを目標にケアに取り組んでいる。 | 介護職としての心得や理念を念頭において、日々のケアの中で言葉かけには注意を払い、自己決定しやすい声かけをしている。入居者の個性を損ねない対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の皆様が、自己決定しやすい言葉の「語尾」には…か？で終わるよう周知している。 ・行事への参加等、自己決定してもらえるよう、声かけを行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・当ホームは、一日のスケジュールが決まっておらず、入居者が自由に生活できる体制である。 ・入居者の個々の希望に即、対応できるよう(買い物・ドライブ等)手厚い職員配置である。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・入居前、お出かけ前等、入居者が好みの洋服を選択できるよう、声かけをおこなっている。 ・地域の散髪ボランティアが定期的に訪問し整髪していただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・食事の準備片付け、買い物など、入居者ができる部分(残存能力の活用)を促し支援している。 | 食事は3食事業所内で調理し、昼、夜は調理担当職員が担当している。入居者の高齢化やADLの低下に伴い、食事の一連の作業には限られた入居者の参加となり、食材の下ごしらえや食器洗い、下膳に参加している。半介助の入居者2名を職員は見守り、介助しながら一緒に食事を摂っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・排泄、水分摂取、食事摂取量をチェックし、個々の体調を把握している。必要に応じてDrと情報を共有している。 ・個々のADLに合わせ、食事形態の変更、また補助具等の活用を行い支援している。 | | |

沖縄県(グループホーム喜楽)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・毎食後、個別で口腔ケアを行っている。また、口腔内を観察し、異常があれば、看護師通して協力歯科医院へ報告し、処置を行ってもらえる体制である。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・ホームでは、重度化が進んでいるが現在オムツ着用の入居者いない。 ・入居者全員24h排泄チェックシートを用いて自立に向けた、支援を行っている。 | 入居者は日中綿パンツやリハビリパンツにパット使用でトイレで排泄している。排泄パターンを把握し、訴えられない入居者も時間誘導や二人で介助する等、トイレで排泄できるよう支援している。排泄の自立に向け、下肢筋力維持を散歩や立位保持で取組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・食事の際、牛乳・ヨーグルト等の乳製品を取り入れるようにしている。 ・適度な運動等を行い便秘改善に取り組んでいる。 ・便秘が続く際は、主治医と連携し対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ・基本的には、本人様からの希望があれば、いつでも入浴できる体制である。 ・現在、夕方希望の方もいらっしゃる。 | 入浴は2日に1回としているが、意向に応じ毎日でも対応可能とし、一人でゆっくり入浴する入居者もいる。入浴のない日は足浴の支援をしている。浴室内への環境は車椅子の誘導や脱衣所の確保等が厳しく、脱衣や更衣を浴室内で実施している現状となっている。 | 浴室内は、湿気や床が濡れた状況にあり、更衣時の危険の排除、車いすでの誘導や脱衣室の環境整備が望まれる。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・入居者個々の生活リズムに合わず事を一番に考え、その方にあつた休養を取っていただいている。また、日中は、散歩・外出(洗濯たたみ等)を行い夜間ぐっすり眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・内服薬の変更等があれば、Nsより申し送りがあり、副作用等の注意事項の説明がある。 ・ケース記録にも、処方箋が添付されているので職員も確認できる状況である。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・入居者の生活歴を鑑み、趣味・嗜好を活かせる取り組みを行っている。 (洗濯・園芸・調理)など | | |

沖縄県(グループホーム喜楽)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> 希望があれば、コンビニ・スーパー等へ行き買い物している。 正月・旧盆等、一時帰宅等の支援を行っている。(送迎等) 出身地の大正琴サークルへ週1回通っている方もいらっしゃる。 | 事業所周辺の散歩やドライブ、近隣のスーパーに買い物に出かけているが、以前より外出は減少している。事業所への来訪者を増やす活動に切换え高校生との交流に繋げ、高校生企画の公民館でのミニディに出かけている。入居者の大正琴サークルへの送迎を支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理が可能な方は、本人様が管理している。 お小遣いとして、事務所で管理しているが、行事や外出時は、個々で財布を持たすように取り組んでいます。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> 電話は、いつでも使用できるよう、事務所前のカウンターに設置している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | <ul style="list-style-type: none"> 入居者様が落ち着いた「自分の家」のような空間を提供するため、余計な飾り付け等は、行っていない。また、家庭的な空間を感じていただけるよう、食事も毎食ホームで作り、匂いなど、五感を感じられる雰囲気である。 | 共用空間の居間には、テーブル4台とソファー2台を配置し好きな場所で寛いで過ごせるよう工夫している。居間からは食事作りの様子や匂いが漂い、入居者はカウンター越しに事務室の職員と会話を楽しんでいる。玄関には正月の花を活けている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | <ul style="list-style-type: none"> 気の合った仲間と座席を共にする配慮を行っている。また、隣室で雑談を交わす等、家庭的な雰囲気を大事にしている。 希望があれば入居者と一緒に居室の模様替えを行ったりフレッシュしていただいている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | <ul style="list-style-type: none"> 入居時、自宅で使えなれた物の持ち込みは、可能ですと説明しています。ペット・タンス・机・イス等の持ち込みがあります。 | 居室入口には暖簾がかけられ、入居者に合わせて家具の配置や室内の温度調節は職員が行っている。テレビ、ラジオ、椅子等が持ち込まれ、花や観葉植物、壁には作品や思い出の写真を飾り居心地よく過ごせる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | <ul style="list-style-type: none"> 入居者個々のADLに合わせた環境作り居室の位置、ベットの位置等を検討し、できるだけ自立に向けた支援ができるよう取り組んでいる。 | | |